



「貴志川町長に対する申し入れ」協議レポート

日 時 2005年1月19日 9:00～10:00
場 所 貴志川町役場 町長室
出席者 貴志川町 : 中村町長、西川企画情報課長、上山総務課主幹、西川広報公室課員
貴志川線の未来を”つくる”会 : 濱口代長、奥副代表、吉田事務局長、奥山

〔濱口〕和歌山市長の新春記者会見(1/14)の発言内容について、唐突の話で驚いている。貴志川線存続について、我々の気持ちを明らかにして、町長の考えを伺いたい。

今日までの経緯の中で、行政も鉄道として存続することを明らかにしており、変更するのであれば、住民の納得のいく話でなければならない。

貴志川線は定期券利用が2/3である、廃止となれば渋滞がひどくなる。道路整備には時間と莫大な会が必要であり、マイナス面が多い。さらに環境教育、高齢者問題にも総合的に関わる大きな問責である。

本来、県全体の交通体系の問題であり、公共交通機関の役割は大きく、貴志川線がなくなればバランスが崩れる、より充実させていかねばならない。

貴志川線の存続は行政の支援なければやっていけない。行政の当然の責務である。鉄道は公共施設であり、例えば、マリーナシティの「和歌山館」は産業振興ということで、県の費用で運営されている。貴志川線への補助についても同様の考えにたってもらいたい。

貴志川町として、存続に向けてよくやってもらっているが、町としてもっと県に働きかけてほしい。

「会」としての要望、意見を表明する場所がない。南海電鉄の撤退が確実となった状況から、既設の「南海貴志川線対策協議会」の整理を行い、我々も参加できる新たな組織を早急に立ち上げてもらいたい。

〔町長〕

(1)公募や記者会見の内容について、町は説明を受けていない。また、シミュレーションも和歌山市単独で行ったものであり、これらの件について、県・市・町で協議は行っていない。

12月27日に和歌山市長とさして会談し、「電車で存続していきたい」と表明すべきだと申し上げ、貴志川町としても金は出すと伝えている。一度カネを出せば合併しても引き継がれていく。

昨日(1/18)和歌山市の企画部長と次長が来庁し、試算内容についての説明を受けた。その内容は、

上下分離で初年度6100万円の赤字で、10年間のシミュレーションで赤字補填は8億必要。

資産買い取りについて、南海は21億円といっている。

和歌山部9番ホームのJRからの買い取りに2億4千万円。

施設の大きな補修費として、変電所(3ヶ所)の改修に13億が必要。

(2)(和歌山市の)企画部長は「いまさら引き下がれない、電車で存続する」ことで取組を進めると言っていた。

(3)この説明を受け、和歌山市長に会談を申し入れ、本日(1/19)13時から和歌山市長と協議することにした。また明日(1/20)上京し、二階代議士に、県に対する工作を行ってもらおうよう要請する。和歌山市長には「赤字補填について県に50%持ってもらいたい」と話し合いたい。



(4)「南海貴志川線対策協議会」については、締めをつけねばならないと考えており、早急に会議を開催するよう求めている。事後は「貴志川線存続」を目的とする会とせねばならない。

(5)参入したいという会社はあり、町にもきている。

(6)初期投資については、県がおこなうといっている。

【濱口】 利用者が減っているとときに云われるが、実感としてそのようには感じられない、どう計算しているのか。

存続会社については、積極的な増収、利用者増に向けた対策について、会として検討を進めているが、撤退する南海に対していまさらという複雑な住民感情もある。

【課長】 運輸省は、廃線の話がでるとどのケースにおいても利用者が減るという傾向があると言っている。

【町長】 事後は貴志川線を使って、貴志川にきてもらうことも考えていきたい。例えば「めっけもん市場」の開設や、駅名についても「神前」を「島精機前」としスポンサー料を戴くことも考えていけば良い。

【吉田】 住民の熱意が感じられないといわれるが、今回、存続で一致する他の団体、サークルなどが連合して、取り組みを進めるための具体的な作業が進んでいる。

【奥】 鉄道として残すということを県・市・町で早く表明してもらいたい。

【町長】 財政については、できるだけ県に出してもらい、国の援助も受ける知恵を出して行きたい、例えば県には、初期に基金を積んでもらう、また国には交付金を上積みしてもらうなど、知恵の出しよう、工夫のやり方はある。

【濱口】 (和歌山)市長に住民の声を伝えてもらいたい。重ねて早急に貴志川線を鉄道として存続する意思表示をしてもらいたい。

【町長】 鉄道で存続することで町としては取り組んでいく。

以上